2025年10月5日 聖霊降臨後第十七主日礼拝説教
「災い招く己を見よ」(ルカ17章1～10節)

◎聖書朗読：ルカ17章1～4節(新約P.142)

○ルカ17章1節のみことば

「a. つまずきは避けられない。だが、それをもたらす者はb. 不幸である。」

a. 【原語】罪に陥れること b. (～に) 災いあれ

☞キリストが語る〈つまずき〉とは、神に向かう心を妨げ、世や人の言葉を信じさせ、神から引き離してしまうこと。

「あなたがたも気をつけなさい。」(3節)

[直訳] あなたがた自身のことを、見張っていなさい。

「もし兄弟が罪を犯したら、戒めなさい。そして、悔い改めれば、赦してやりなさい。」(3節)

*悔い改める：行く道の矛先、心と思いを神のほうへ向ける

☆罪の赦しは、赦された人の命が変えられるためにある。

※あなたも、つまずきを与える人を裁く側に立ち、人の罪を赦す立場だけについて、災い招く己に気づいてないのでは。

今日のみことば：ルカ17章5節

「わたしどもの^{しんこう}信仰^まを増してください。」

弟子たちは、兄弟の罪を繰り返し赦せはしないので、赦すことができる信仰を増すよう、救い主イエスに願い出た。

☞神を信じ、依り頼む心は、増えたり減ったりするものではなく、小さくても、それをを用いる時に、強められていく。

「からし種一粒の信仰があれば、」(6節)

問：人の罪を赦す信仰とは、どのようなものか？

○ルカ17章10節のみことば

「わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです。」

たとえ、あなたが、兄弟姉妹に赦しを与えられても、それは神から賜ったものなので、誇るべきことは、なにもない。